

## 令和7年度第2回三条市健康づくり推進協議会 会議録（概要）

### 1 日時及び会場

日 時 令和8年2月19日（木）午後1時30分から3時10分まで  
会 場 三条市役所 本庁舎3階 第一会議室

### 2 出席状況

#### (1) 出席委員（9人）

坪川会長、横山委員、谷地田委員（ZOOM）、澤口委員、五十嵐委員、岩瀬委員、鳥部委員、米山委員、佐々木委員（ZOOM）

#### (2) 欠席委員（4人）

渋谷委員、坂内委員、山井委員、渡辺委員

#### (3) 事務局

福祉保健部 村上部長

健康づくり課 小林課長、梨本課長補佐、佐藤室長、堀江係長、真島係長、竹見主査、大泉主査、佐々木主任、太田主事、村上主任、樋口主任、小柳主任

地域包括ケア推進課 松平課長補佐

高齢介護課 永井課長補佐

### 3 傍聴 なし

### 4 報道機関 なし

### 5 内 容

#### (1) 開 会

#### (2) あいさつ

村上福祉保健部長

#### (3) 議 題

ア 三条市健康づくり計画 令和7年度の取組の進捗状況・課題、令和8年度の取組の方向性及び事業内容について

- ・基本施策1 社会とのつながりを通じた健康づくりについて事務局（梨本課長補佐）から資料に基づき説明（P.4まで）
- ・事前に委員から提出いただいた主な御意見及び問題点、御提案について資料2に基づき説明（P.1）

#### (質疑)

澤口委員 (2) 民間等と連携した自然と健康になれる食環境整備について、こっそり減塩作戦は、減塩はおいしくないというイメージが付くからこっそり減塩しようということで始まった事業と認識している。拡大して周知をしていくとのことですが、今は広く周知しているのか。

大泉主査 こっそり減塩作戦の事業の周知については、協力いただいているお

店で減塩のお惣菜を減塩と周知せずに販売する取組で、その惣菜に対して UMAMI SANJO のマークを付けて周知をしている。そのマークの意味などを健診会場などで市民に広く啓発している。

五十嵐委員 (2) 民間等との連携した自然と健康になれる食環境整備の「集いの場での定期的な共食機会の増加」について、「食生活改善推進委員の協力の下、共食を実施されており、その課題としては、「共食の事前準備が負担となる集いの場では、負担が少ない方法で実施する必要がある」とされている。それに対して、令和8年度の事業内容が、「配達弁当の事業者情報の提供など」とある。食生活改善推進委員としては、一汁一菜でも、手作りで温かいものを食べていただきたいと思っている。しかし、実施する場所に調理設備が整っておらず、調理器具を持ち込んで作っている。負担が少ない実施方法として、配達弁当の事業者情報の提供をすることだが、それなら、食生活改善推進委員が関わる意味は何だろうと思う。二中校区に無かった公民館（三条東公民館）ができあがってみたら調理室がなかったため、調理室が欲しいと二中校区の自治会長に嘆願に回って、小中一体校になる時に地域交流施設内に調理室ができた。使う人と作る人が離れていると感じた。食生活改善推進委員は、調理室が無いことに負担を感じているので配達弁当の事業者情報は少し違うのではないかとと思っている。

坪川会長 食生活改善推進委員による対面での手作りの普及を大事にしてきたというお立場で、この負担というのは物品の準備であったことから、この事業の位置付け、ねらい、意図をお聞きすればよいですか。

大泉主査 食生活改善推進委員の皆さんから御協力をいただきながら取り組んでいる共食は、集いの場で主体的に共食ができるように支援することを目的に始めた。食生活改善推進委員の皆さんからお汁や食事を作っていた中で、この位ならできるという手法をとりながら進めてきた。しかし、いざ自分たちで準備するとなると食材の準備や調理器具の持参などがあり、難しい集いの場もあると感じた中で、配達してもらったお弁当を食べることで共食に繋がるため、食生活改善推進委員の協力以外の選択肢を増やして、集いの場に合わせて取組みを進めていきたいという意図で考えている。

五十嵐委員 いろんな選択肢の中の一つに食生活改善推進委員の活動があると思いました。

- ・基本施策2 ヘルスリテラシーの醸成及び向上のためのアプローチ  
事務局（梨本課長補佐）から資料に基づき説明（P.5からP.14まで）
- ・事前に委員から提出いただいた主な御意見及び問題点、御提案について資料2に基づき説明（P.1からP.3）

(質疑)

鳥部委員 提案になりますが、9ページの(4)民間企業や関連機関と連携し

た運動による健康増進のための取組の実施を含めて、いろんな場面で事業所での周知、啓発をしていかなければならないという課題がある。それに関しては、トップだけでなく、担当者の熱量にかなり左右されるという話があるが、その通りだと思っている。企業は、利益を追求するため福利厚生部分は後回しになってしまう企業が多い一方、最近では、働き方改革を推進していく中で、人口減少や人手不足で企業としては福利厚生がしっかりしないと人が来てくれない状況になってきており、否が応にも健康経営に取り組まなければならない。むしろ、企業にとって福利厚生が充実していると対外的にPRし易いのが健康経営である。健康経営は、企業もお互いウインウインの形で取り組みやすいと感じている。9ページに市と健康経営で連携協定を締結しているアクサ生命と啓発を強化することはとても良いことである。一歩踏み込んで健康経営のパッケージみたいなものを市で用意するとより普及しやすいと思う。

三条商工会議所も健康経営の取組で、アクサ生命とタイアップして健康習慣アンケートを毎年全職員に行っていて、去年は、運動不足があったので、朝礼にラジオ体操を取り入れた。今年の調査は、コミュニケーション不足があったため、考え方の傾向を知るというメニューでコミュニケーションの場を作った。このように、アクサ生命で行う診断アンケートに対する処方箋に、運動不足があれば、市のちょこっと筋トレのパッケージを行ったらどうですか、少し塩分が多かったら減塩メニューのパッケージはどうですかなど、セミナーと塩分調査と何かを一つのパッケージで行うと企業はその取組を行うことで健康経営の申請ができる上、PRができて良いと思う。健康経営は毎年申請しなければならないため、そういうパッケージがあると取り組みやすいと思う。打算的なところもあるが、企業が動きやすいようにメニューを作られると企業に普及させるには良いと思う。

真島係長

先日もアクサ生命に健康づくり課が提供できる筋トレメニューや尿中塩分摂取量の推定調査などのメニューがあること、手法については座学や掲示物でお伝えすることなどがあることを事業所に伝え、事業所のニーズに答えられるよう相談しながら進めたいと話しました。また、アクサ生命も訪問する事業所にこのようなことを伝えていただきたいと打合せをさせていただいた。来年度に向けては、パッケージにどんなメニューがあるのかやどんな手法で提供できるのかを一枚にまとめたチラシを作成し、アクサ生命にも活用していただきたいとお願いしている。

- ・基本施策3 健康リスクに応じた個別支援  
事務局（梨本補佐）から資料に基づき説明（P. 15 から P. 28 まで）
- ・事前に委員から提出いただいた主な御意見及び問題点、御提案について資料2に基づき説明（P. 3 から P. 4）

（質疑）

谷地田委員 21 ページから歯と口腔に関する件で、昨年 11 月に歯科保健に関する実務者協議会があった。歯周病検診の受診者は 900 円の自己負担をしていただいている。国や県の制度があり難しいと思うが、歯周病検診の受診者にしてみると、少し物足りないという意見があった。他の地区の話を見ると検診後にブラッシング指導や口腔内の歯面清掃まで行う自治体があると聞いた。今後そのようなことも視野に入れて、歯周病検診を進めていくのはどうか。歯周病検診の受診者は、令和 7 年度は 329 人とあるが、私の医院では定期的に歯科医院に受診される方がほとんどで、新規で歯周病検診を受診し治療に関わりたいという人がそれほど多くいない。全くの新規の人に対して啓発する何かが必要なのではないかと思いました。その点についてはいかがか。

堀江係長 1 点目の歯周病検診の内容にブラッシング指導等を拡充することについては、これから考えていきたいと思っている。もう 1 点の歯周病検診の受診者の新規をどのように啓発をして増やすかについては、特に検診は、若者、働き盛りの方が受診に繋がっていないことから、厚生労働省のモデル事業などを活用しながら事業所に負担をかけない形で連携し進めていきたいと考えている。

谷地田委員 ありがとうございます。今後も相談していきたいと思っている。

横山委員 次年度は市民への健康に関するアンケートをとった上で、令和 9 年度に向けた中間総括の年だと思っている。今までの市からの説明を聞く中では、私たち三条市民を一人の人間として見ていないのではないか。生まれて死ぬまでの一連の流れがある中で、現在の市のやり方は、ある部分だけを捉えて取組を実施しているように見える。もう少し、他の社会資源も取り入れて、縦割り、横のつながりとかではなく、三条市にある社会資源を全部活用していく必要がある。10 年同じ話を聞いている。例えば、谷地田先生が言われた周知に関して、乳児健診とか、学校薬剤師、学校歯科医師、学校医師、産業医等それぞれの現場で指導している先生の協力を得ることは考えないのか。

もう一つ、例えば低栄養の指導や口腔ケアなどあるが、医療職、栄養士の専門職は BMI しか見ていない。高齢者になって身長が縮めば BMI は悪くなるのは当然なので、そういった所を誰がどのように啓発していくのかが全く表に出ていない。そういったことを令和 9 年度以降取り入れると良いと思う。そろそろ、こっそり低脂肪とか、こっそり低糖質とか次のステージを見据えて欲しい。薬剤師は、学校保健会にも呼ばれて意見を求められるが、子ども達の身長、体重、栄養状態などの県や全国と比較した数値が出てくる。歯科医師会の努力により全国においてむし歯が少ない県になっている。こういった社会資源や実績があるが、こういう会議で全く話が出ていない。同じ三条市で、同じ行政を行っている皆さんであるし、全く違うところで私と会うこともあるが、全くそういう話が出てこない。もっと、三条市民のことを本当に考えて欲しい。

薬剤師会の役割は、利用者からの相談を受けることのほかに、いかに専門機関にタイミング良く繋いでいくかが基本である。相談云々ではなくて、そういうストレスを持っている人は、酒も飲む、たばこも吸う、栄養状態も当然悪い、そのような人の睡眠の質はどうか。三条市教育委員会において今年、睡眠に関する学習会をやったことを知っているか、知っていたならなぜ活用できないのか。まずは、そこからやれば、分かりやすい内容になる上、いろいろな意見が出るのではないか。

公民館で、ちょこっと筋トレができるようなマシンなどを一つ設置して、それがあから行こうというきっかけ作りも一つであるし、汗を流したから昼飯を一緒に食べるなどのコミュニティもある。市民が生活している各地区の単位で取組を考えていかないといけない。下田地区は、学校も人口も減っているから、移動距離だけが長くなり、本当に市民サービスはどうなるのだろうと不安に思う。市民や現場で携わっている人達の話をもう少し取り入れて市の取組の方針や具体的な内容に今以上に組み込んでいただきたいと思う。

村上部長 多くの御指摘をいただいたが、なかなか旧態依然と変わらない部分について、誠に申し訳なく思っている。複数のことを細かく考えていくと、どうしても全体が見えなくなってしまうところがある。そして、各部の事業や各セクションの事業が細かくなるとそれだけ横の連携が取りにくいのが実情としてある。一人の方の施策に対しても、セクションや係によって、複数のことを組み合わせる必要があり、その人の地域の状況を入れることも難しくなってくる。本日、御指摘をいただいた点を踏まえ、後期に向けて、社会資源の活用も含めて、各部の事業等の連携を図りながら、組み合わせを考える視点をもう少し入れて、行っていきたいと思う。本日はありがとうございました。

横山委員 令和9年度は、ぜひ、よろしく願います。ありがとうございました。

イ その他

坪川会長 以上で質疑を終了します。議題の(2) その他ということで、委員の皆様方から何か御提案などありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。ないということで終了させていただきます。

(4) 事務連絡

坪川会長 それでは、事務連絡について、事務局説明をお願いします。

梨本課長補佐 本日は、貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。今後の事業の実施において、参考にさせていただきます。

次の開催日につきましては、翌年度となりますが、会長及び会長

職務代行者と協議の上、委員の皆様に御連絡いたしますので、よろしくお願ひします。

坪川会長       この件につきまして、御質問ありますか。よろしいですか。以上で本日の健康づくり推進協議会は閉会とさせていただきます。

(午後 3 時 10 分閉会)